

## 「新潟市子ども・子育て会議」各部会の開催状況

前回本体会議（平成 26 年 11 月 27 日新潟市子ども・子育て会議）以降の各部会の開催状況は、以下のとおりです。

### 幼保部会

平成 26 年度 第 4 回（通算第 6 回） 新潟市子ども・子育て会議 幼保部会	
開催日	平成 27 年 2 月 16 日（月）
議事	(1)子ども・子育て支援事業計画（案）にかかるパブリックコメントについて (2)特定教育・保育施設等の利用者負担額について (3)平成 27 年度新設予定の特定教育・保育施設等について
主な委員意見	○パブリックコメントについて、「保育の質については、日々の保育のなかで向上させるよう努めていきます」という市の考え方はよい。 ○利用者負担について、新制度になり、公立幼稚園の授業料を私立に合わせることは難しいと思うが、同じ 1 号認定として今後検討していくべき課題だ。 ○新設予定の施設等について、小規模保育事業の連携施設はどうなっているか。

### 放課後児童クラブ検討部会

第 8 回 新潟市子ども・子育て会議 放課後児童クラブ検討部会	
開催日	平成 27 年 2 月 13 日（金）
議事	子ども・子育て支援事業計画（放課後対策の総合的な推進）について
主な委員意見	○放課後児童クラブとは別に運営されている、ふれあいスクール（新潟市における放課後子供教室）の充実が、地域において必要だということが分かった。実施されていない地域にどう整備を進めていくのか。具体的に形づけて考えていけるといい。 ○学校からの帰宅後自宅で過ごすことのできない児童の生活の場であることを考えると、教室の面積を参考とした 1 人あたり 1.65 m <sup>2</sup> という基準に疑問を感じるが、1.65 m <sup>2</sup> 以上の「以上」に期待し、整備をするという方向で良いと思う。 ○1.65 m <sup>2</sup> をクリアしてしまうと、これでいいとなってしまうがち。1.65 m <sup>2</sup> を準拠しつつ 2 割増しを目指すなどの目標を持って整備を進めるべき。 ○幅広いニーズに応え、受け入れを行ってきたことにより、質の高いサービスが提供できなくなった現状がある。学校敷地内も限界があると思う。5 年間の経過措置期間での整備について、地域の社会資源を活用するなど幅広い選択肢があることを示さないと、不安に思われるのではないかと。 ○現場のひまわりクラブの職員とふれあいスクールの運営主任やスタッフ、PTA、学校に、新潟市が進めていきたい連携の形を周知し、連携を深めることがいずれ子どもたちのためになるであろう。

## 地域ネットワーク部会

第5回 新潟市子ども・子育て会議 地域ネットワーク部会	
開催日	平成27年2月5日(木)
議事	部会の検討事項における子ども・子育て支援事業計画(案)について
主な委員意見	<ul style="list-style-type: none"><li>○成果指標の発達支援コーディネーター養成研修修了者数について、現状の充足率が分かるように記載すべき。</li><li>○発達支援コーディネーターについて、[成果指標]とするならば、[これまでの取り組みと成果]、[現状と課題]、[取り組みの方向性]にも記載すべき。</li><li>○発達支援コーディネーターについて、経験の共有などによりスキルアップを図るなど、質を大切にすべき。</li><li>○「切れ目のない妊娠・出産・育児のための母子保健の充実」という表現は違和感があるので、別の表現ができないか。</li><li>○「子どもに関する相談体制の充実」の中で、「子育てなんでも相談センターきらきら」は、敷居を低くした相談の入り口として先頭に記載したほうが良い。</li><li>○これまで男性が育児に関わってはいけなような雰囲気もあったが、育児休暇を取るなど育児に関わった男性からは、「楽しい」という声がきかれる。男女の従事時間の差を短縮するというよりも、男性に楽しさを知ってもらうような視点から、男性の育児参画をすすめるという意味で、男性がどれだけ育児等に関わっているかを指標にしたほうが良いのではないか。</li></ul>